

悪だくみをする仲間を表す時に、一味という言葉があります。例えば「盗賊の一味」とか「陰謀に一味する」と使う言葉です。辞書によっては「主に悪事を企てる場合に用いる」と書かれている場合もあり、少し物騒な仲間を表しているようです。

他にも、一味唐辛子の一味は、一つの味という意味。七味が、唐辛子以外に胡麻や山椒などの香辛料を加えているのに対して、唐辛子のみでできているものを一味唐辛子といいます。

この一味は、もともとは仏教の言葉です。

海は、様々な場所に広がっていますが、その水の味はどこでも塩辛い事から世の中の現象は多様であるが、実はすべて同一で、それは平等であるという仏教の考え方を表しており、又、お釈迦さまの教えがその地域や、時間、相手に応じて様々でも、より良く生きるという、その本質は同じであることを示しています。

お釈迦さまの説法は、対機説法たいきといい、相手の状況、能力にあわせて理解できるように様々なお話をなさったとされています。その教えをお弟子さまたちが「お経」として伝え、後世の仏教徒が様々な解釈をされて世界の各地に伝わり、その地域毎に様々な形を為しています。

ただ、地域が違って、その形式が違っていても本質は同じと感じる事が沢山あります。例えば、東南アジアの上座部仏教じょうざぶの国では毎朝托鉢たくはつが行われており、人々が多くの僧侶に食べ物や布を布施する姿が見られます。布施をする事は徳を積むことになり、その徳が身内の供養となったり、自らの幸せに繋がるというのです。喜んで捨てると書いて「喜捨きしゃ」と言いますが托鉢は喜捨の修行であるというのです。

日本でも托鉢は行われていますし、各地の寺院や霊場ではお詣りをして供養を行う事により様々な願い事をする方が絶えません。昨今の御朱印ブームもその一つかもしれません。その根底にも「喜捨」の心が流れていることでしょう。

仏教は長い歴史の中で様々に変わっていますが、より良く生きるという、一味が

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

間違い無く伝えられている事を感じずにはられません。

— 終 —